

議員（門 秀俊）

5番、門 秀俊、一般質問させていただきます。

瀬戸内国際芸術祭2025について。多度津駅のバリアフリー化について。一問一答方式でお願い致します。

2010年から始まりました瀬戸内国際芸術祭は今回で6回目を迎え、多度津町としては2013年からの参加で5回目になります。既に2025年度瀬戸内国際芸術祭は、春会期が4月18日（金）から5月25日（日）までの期間で開催されており、次期会期としては、夏会期が8月1日（金）から31日までの開催となっています。

多度津町は、これまでの瀬戸内国際芸術祭と同様に10月3日（金）から11月9日（日）までの38日間で開催される秋会期での参加を予定しており、現在は開催に向けた準備も本格化しているものと思っています。

思い返すと前回2022年の瀬戸内国際芸術祭は、コロナ禍での開催であり、マスク着用や手指消毒など色々な制限の中で行われました。新型コロナウイルス感染症については、完全に終息している訳ではなく、適切な感染症の対策は依然として必要であります。前回とは異なり、アフターコロナでの開催と言えると思います。また、令和6年6月議会で瀬戸内国際芸術祭について一般質問したとおり、今回は大阪・関西万博と同時期での開催ということでインバウンドを含め、これまで以上に多くの観光客が高見島を中心に本町に訪れる可能性があると思います。

それでは、以下5点について質問させていただきます。1、今回の瀬戸内国際芸術祭における春会期の来訪者数と傾向、その分析について分かる範囲でお答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員の春会期の来訪者数と傾向、その分析についてのご質問に答弁をさせていただきます。

瀬戸内国際芸術祭2025については、瀬戸内の島々と沿岸部の全17エリアを会場に春、夏、秋会期の合計107日間、テーマを「海の復権」として開催されています。

春会期については、全会期で開催される直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、高松港エリア及び宇野港エリアに加えて、瀬戸大橋エリアが会場となっており、来場者数については瀬戸内国際芸術祭実行委員会が5月28日に公表した情報によると4月18日から5月25日までの38日間で合計32万668人であったとのことです。

その来場者数の傾向については、新型コロナウイルスの影響で来場者が落ち込んだ前回2022年の春会期の来場者数が35日間で22万8,133人でしたので、前回

との来場者数の比較では約1.4倍の増加となっています。一方で、過去5回のうち最高の来場者数であった2019年は春会期31日間で来場者数が38万6,909人でしたので、6年前と比較しますと約17%の減少となっています。

次に、その来場者数の分析としては前回の2022年には新型コロナウイルス感染症の影響により、国外からの来場者がほぼいなかったのに対し、今回はアフターコロナということに加えて、特に増加が見られる外国人観光客については大阪・関西万博などの他の大型イベントとの相乗効果によって国外から多くの観光客の方が訪れているものと考えています。

一方で、2019年と比較して来場者数が減少している点については、春会期中であるゴールデンウィークが曜日配列によって大型連休になりづらかったことや物価高による出控えも多少影響しているのではないかと推測しています。

また、県実行委員会が混雑の対策として公式サイトに混雑予想カレンダーを掲載し、それを公式アプリ等でプッシュ通知するなど混雑予想の情報発信を重点的に行っています。そのため、前回と比べて来場者数が約1.4倍になっていたにも関わらず、ゴールデンウィーク中の来場者数は前回をわずかに下回っており、休日の混雑は緩和傾向にあると考えています。

次に会場別の傾向としては、島しょ部7会場においては全て前回より来場者数が増加しており、そのうち最も来場者数が多かった直島が前回から約2倍の10万9,706人、次に多かった豊島が前回から約1.8倍の4万9,268人となっています。

一方で、高松港エリア、瀬戸大橋エリア、宇野港エリアの陸地部3会場については、これまで来場者をカウント出来る屋内有料作品がありませんでしたが、今回から屋内有料作品が設置されたことから、島しょ部と同様に屋内有料作品の来場者数で計測が行われました。その影響もあり、陸地部3会場においては前回2022年の来場者数を下回っています。

以上のことから、夏会期及び秋会期についても同様に来場者の増加が見込まれ、全会期を通じた来場者数もコロナ禍前の水準まで回復するのではないかと考えています。

なお、高見島の過去の来場者数については前回2022年が2万1,596人、2019年が2万5,198人であり、コロナ禍による減少の影響が他の会場と比べて比較的小さかったものの、今回は前回以上の来場者となるのではないかと想定しております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問に入ります。5月16日に高松市沖で発生した瀬戸内国際芸術祭のツアー船舶の火災事故がニュース等で報道されました。高見島・佐柳島の島民の方にとって、日々の移動における安全確保はもちろんのこととし、島しょ部で

のイベントを行う上でも参加者の安全やその備えは大変重要であると改めて感じています。

そこで、今回起こった船舶だけでなく、イベント全般における安全対策の考え方についてお答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員のイベント全般における安全対策の考え方についてのご質問に答弁をさせていただきます。

傷病者発生時といった緊急時については、県実行委員会が作成している全体マニュアルのうち「緊急対応について」という項目に沿って県実行委員会事務局や県が運営を委託する事業者などと連携して対応することとなります。また、町職員の動員スタッフやボランティアの方については、町で緊急時の対応や連絡体制のマニュアルなどを作成し、周知する予定としています。

このほか、会期中の体制として過去の開催では、高見診療所が開設していない日は町の保健師を1名派遣し、来場者等に傷病者が出た際に一次的な対応が出来る体制を構築しており、今回も同様の体制を構築する予定です。なお、緊急搬送が必要な傷病者や急病者が発生した際は、消防本部と連携して平時の際と同様に適切に病院等へ搬送が行われることとなります。

また、来場者自身に安全対策を講じてもらうことも重要であり、飲料水の持参を含めた熱中症対策やスズメバチに刺されない対策が、まずは重要であると考えています。

先ほどの混雑緩和の事例からも分かるように、昨今では来場者自らが積極的に情報収集を行い、イベントに参加する傾向があります。そのため、県の瀬戸内国際芸術祭の公式ホームページはもちろん、町公式ホームページやSNSのほか、今後作成予定の島マップなどの媒体を活用し、事前に安全対策に関する情報提供を行うとともに会期中は多度津港で来場者に声掛けを行うなど安全対策に関する積極的な情報発信を行っていく予定です。

次に船舶の安全については、会期中は定期船が増便されるほか、高見島を含む栗島・本島間の横航路の臨時便が運行されることから、改めて船会社と協議を行い、運行上の安全確保に努めていきます。

なお、議員ご質問の高松市沖で発生した瀬戸内国際芸術祭ツアー船舶の火災事故に関しては、四国運輸局より船舶事業者に注意喚起が行われたほか、県実行委員会においても県交流推進部を通じて県内旅行業者に安全管理を徹底するよう周知が行われています。

いずれにしても日々高見島で生活をされている島民の方はもちろんのこと、来場者の安全・安心の確保は最優先の事項であることから、その対策については県実行委員会など関係団体と連携を密にしながら、今後も安全安心の確保に努め

ていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問に入ります。3、冒頭にも言いましたが、新型コロナウイルスの影響が薄れつつある中、大阪・関西万博と同時開催ということで、高見島への来訪者は外国人観光客を含めて増加することが予想されます。

まず、町としてこれまで以上に瀬戸内国際芸術祭の推進体制を強化する必要があると思いますが、一方で、開催年度である今年度になって高見島に繋がり深い職員が不在になるなど島民や関係者の間でその体制を不安視する声が聞かれます。現在の庁内の推進体制は十分なものとなっているのか、お答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員の現在の庁内の推進体制についてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員ご質問にもありますとおり、高見島の実情や瀬戸内国際芸術祭の業務経験が豊富な町職員が不在となり、島民の方や関係者から不安の声が上がっていることは承知しております。

現在の瀬戸内国際芸術祭に係る推進体制については、本町での瀬戸内国際芸術祭の開催に伴い、本町の活性化、定住人口の増加及び国内外への情報発信の促進に寄与することなどを目的として、町長を委員長とし、各関係団体で構成する瀬戸内国際芸術祭多度津町実行委員会を平成24年11月16日から組織しています。また、内部組織として副町長を会長とし、各関係団体で構成する瀬戸内国際芸術祭支援協議会も設置されており、実行委員会の目的を果たすための支援を行っています。

この実行委員会の事務局として、瀬戸内国際芸術祭の所管部署である政策課において主担当職員1名、副担当職員3名、会計年度任用職員1名、統括として政策課長1名の体制で当該事業を進めています。

また、令和7年4月から本町から香川県瀬戸内国際芸術祭推進課に職員1名が出向し、高見島の担当者として従事しています。

本町としては、その出向職員を窓口として、県の瀬戸内国際芸術祭実行委員会と過不足なく情報共有を行い、緊密に連携を図りながら事業を進めているところでございます。

しかしながら、瀬戸内国際芸術祭の準備や会期中の運営を適切に行っていくためには、これまでの経緯や実情を知る経験が必要であり、また、会期中はボランティアの方のご協力をはじめ、非常に多くのマンパワーが必須となります。今後は所管部署である政策課以外の部署との連携強化を図りながら、経験者からも必要に応じて協力を仰ぐなどによって、より円滑な運営体制の構築につい

て検討していきたいと考えております。

今後も庁内の推進体制の充実を図りながら、瀬戸内国際芸術祭2025の成功に向けて事業を進めていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問に入ります。4、これまで高見島の作品展開については京都精華大学を中心としたものでしたが、今回の作品展開はどのようなになる予定なのか、現時点で分かっていることをお答え下さい。また、本町のオープニングイベントやクロージングイベントなどは今回も行う予定なのかお答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員の今回の作品展開及びオープニングイベントやクロージングイベントについてのご質問に答弁をさせていただきます。

2013年の参加当初より高見島においては、京都精華大学有志が高見島プロジェクトとして作品展開を行っていましたが、今回からは新たな作家による作品展開が行われると県の実行委員会から報告を受けています。ただし、継続作品や新展開作品は、京都精華大学関係者が過去に高見島プロジェクトとして作成した作品であることから、引き続き京都精華大学と関係の深い作家も参加することとなります。

今回の作品展開については、新規作品が2作品、新展開作品が2作品、既存作品が4作品の合計8作品の予定となっています。

まず、新規作品のうち1作品は「BankART1929」がディレクションを行う「TAKAMISHIMA ART TRAILー高見島アートトレイル」です。こちらは、共同作品及び個人作品の集合体で、グループとして計8作品が制作される予定です。しかし、その作品内容や場所については現在調整中とのことです。

もうひとつの新規作品は「EAT&ART TARO」さんの「エイリアンフード 島の外来種」です。こちらは高見島で採取した外来植物を食材とする食プロジェクトとなっており、高見島研修センターにおいて、その外来植物を材料としたカレーやお茶を創作し、有料での提供が行われる予定です。

次に新展開2作品については前回2022年と同じ場所で、小枝 繁昭さんの「はなのこえ・こころのいろ2025／除虫菊の家」、藤野 裕美子さんの「過日の同居」が新たに手を加えられ展開される作品として公開される予定と聞いております。

次に既存作品4作品については中島伽耶子さんの「時のふる家」、村田のぞみさんの「まなうらの景色 2022」、西山美なコさんの「～melting dream～／高見島パフェ名もなき女性(ひと)達にささぐ…」、内田晴之さんの「Merry Gates」が継続して展開される予定であると聞いております。

最後にオープニングイベント及びクロージングイベントについてですが、まず

日程についてはオープニングイベントが会期最初の土曜日である10月4日に、そしてクロージングイベントが会期最終日の11月9日にそれぞれ実施する予定です。

現時点では実施内容は未定であり、前回2022年はコロナ禍であったことから一部縮小しての実施となりましたが、2019年の際は高見港待合所前で歌披露や風船リリースなどのイベントを行うとともに高見いこいの家の北側で開会式として大勢の来賓の方々にお越し頂き、多度津京極少林寺拳法太鼓の披露などのセレモニーを執り行いました。

また、クロージングイベントについては、2022年は高見港発の最終便に合わせて島民の方々にサイリウムを振って頂き、来場者のお見送りをして頂きました。また、多度津港では香川大学たどつまちLaboの協力により、竹あかりや行燈を設置しました。2019年は高見港周辺で大小約20個のかがり火を焚いて、最終便のお見送りを行いました。

今回の瀬戸内国際芸術祭においても出来る限り本町の特色を活かしながら、オープニングイベントやクロージングイベントが実施出来るよう、ご協力頂ける関係機関とも協議を行いながら検討を進めていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

最後に町長にお伺い致します。瀬戸内国際芸術祭の担当部署以外で、今回の瀬戸芸に併せて、多度津町として独自に検討している関連事業などがありましたらお答え下さい。

町長（丸尾 幸雄）

門議員の独自に検討している関連事業についてのご質問に答弁をさせていただきます。

まず、前回2022年に初めて陸地部側の本町筋において、多度津街中プロジェクトとして3つの作品展開が行われました。その内容につきましては、旧塩田家土蔵にて尾花 賢一さんの「海と路／一太郎やあい」、旧吉田酒造場にて山田 悠さんの「Nocturne (Tadotsu)」が作品展開され、合田邸にて「多度津町―海陸交通の発展・近代化を支えた商人たち―」と題して、合田邸の内部公開とともに近世から現代に至る多度津の歴史について年表や記録映像などを用いて紹介されました。

今回の瀬戸内国際芸術祭における陸地部側の作品展開につきましては、現状では未定であり、高見島も含めた作品展開の詳細について県の実行委員会から正式な連絡を待っているところであります。

仮に瀬戸内国際芸術祭として陸地部側の作品展開がない場合においても現在、重要伝統的建造物群保存地区の指定に向けて重点的に取り組んでいる旧本町商

店街エリアにおいて精力的な活動を行っている民間団体などともコラボし、定期開催している「本町デー」や合田邸の公開と組み合わせることで、陸地部側にも出来る限り多くの来訪者を呼び込み、賑わいの創出と宣伝効果の最大化を図っていきたいと考えております。

一方で瀬戸内国際芸術祭と時期を同じくして国勢調査やデマンド交通の実証実験が予定されており、それらの事業を所管する政策課単独での事業実施は困難であることから、これまで以上に庁内の関係部署が協力して取り組む必要があります。

それらを踏まえ、町単独での取組については実施を前提として関係課において主体的に事業の検討を行った上で、実施に向けた準備を進めるよう指示を行っております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

町長、有難うございます。私の意見なのですが、本町の陸地部の展示物がない場合、本町独自で考えて頂いて町内に人が流れる動線を考えてみて下さい。また、本通もそうですが、北前船日本遺産の理由地である多度津湛甫、白灯台なんかは、特に若い子にベンチとか、もしかしたらブランコでも置いたらインスタ映えして、たくさんの方が来て頂けるかなと思います。これは私のただの意見です。有難うございます。

それでは、次の質問に入ります。多度津町のバリアフリー化について。

これまで長い期間をかけて利便性や費用の問題、先行整備した跨線橋との兼ね合いなど、その整備方法について多岐にわたる議論が行われたことは承知しています。最終的には、事業主体であるＪＲ四国から示された案を基として整備することが、国・県・町・ＪＲ四国の４者で合意され、先の令和６年３月議会の総務教育常任委員会での「その他報告」において、執行部から町議会に対して示された整備内容とスケジュールで現在も整備事業が進んでいるものと思っています。

そこで、４点質問させていただきます。１、今回の多度津駅のバリアフリー化に関して、改めてその趣旨や考え方などをお答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員のＪＲ多度津駅バリアフリー化の趣旨等についてのご質問に答弁をさせていただきます。

高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、いわゆる「バリアフリー法」に基づく国の「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において、駅のバリアフリー化に関する地元自治体の責務が明記されるとともに１日当たりの平均的な利用者数が３,０００人以上である鉄道駅については、原則としてバリアフリー化を早期に実施するという努力義務が掲げられています。ＪＲ多度津

駅については、令和5年度の実績で1日当たりの利用者数が3,832人であることから、国の基本方針に基づき、鉄道事業者及び関係機関と協力して可能な限り早期にＪＲ多度津駅のバリアフリー化を実現する必要があります。また、自然災害時に迅速な防災行動が取りにくい高齢者や障害がある方などの要配慮者の避難及び移動手段を出来る限り早期に確保する必要もあることから、移動等の円滑化と鉄道利用者の安全性及び利便性の向上などを目的としてＪＲ多度津駅のバリアフリー化事業が実施されています。

さらに、本町の総合計画や総合戦略策定の際に実施した住民アンケートにおいても「多度津駅にエレベーター等がなく不便である」という声も町民の方から頂いております。

以上のことから、本町としても法令の趣旨に則り、出来る限り早期にＪＲ多度津駅のバリアフリー化が実現されるよう、事業主体である四国旅客鉄道株式会社から提示された現在の整備案に基づいて法令による既定の補助金を交付するなど地元自治体として必要な支援を適切に行っているところです。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問に入ります。2番目、現在、ＪＲ四国などの関係団体と意見交換等は行われているのか、お答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員のＪＲ四国などの関係団体との意見交換についてのご質問に答弁をさせていただきます。

ＪＲ多度津駅のバリアフリー化事業については、これまでも地元自治体として事業主体であるＪＲ四国とは情報共有や協議を重ねながら、長期にわたり事業実施に向けて検討を行ってきました。また、現在、実施している整備内容は令和5年度にＪＲ四国から提示され、それぞれの関係機関において承認の上で進められておりますが、その後の整備内容が固まった現在においても駅のバリアフリー化事業に関する詳細な事項や進捗についてＪＲ四国はもちろん国や県などの関係機関と緊密に情報交換を行いながら、進めているところでございます。

それに加えて令和6年度からは、新たな取組として「多度津駅周辺のまちづくりに係る情報交換会」を定期的で開催しております。当該情報交換会については、ＪＲ四国の総合企画本部、県の交流推進部交通政策課、本町の政策課が参加し、各団体でＪＲ多度津駅のバリアフリー化事業を所管する部署間の連携を主な目的として開催していますが、その中では単に多度津駅のバリアフリー化だけではなく「交通」や「まちづくり」などの幅広い事項について忌憚のない情報交換を行っています。

今後も引き続き関係機関との連携を図りながら、法令の趣旨に則り、ＪＲ多度津駅のバリアフリー化事業を支援するとともに、当該情報交換会の中で町・県・ＪＲ四国の三者が連携して取り組める事項を模索しながら、「交通」や「まちづくり」などの分野を中心にＪＲ多度津駅周辺の利便性の向上や町の活性化に資する取組みについて、継続して検討を行っていきたいと考えています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

次の質問に入ります。3、多度津駅のバリアフリー化に関する最新のスケジュールをお答え下さい。併せて、以前の「その他報告」で示された整備スケジュールから何か変更があったのかもお答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員のＪＲ多度津駅バリアフリー化に係る最新のスケジュールについてのご質問に答弁をさせていただきます。

議員ご質問にもあります令和6年3月定例会の総務教育常任委員会でご報告した整備スケジュールについては、現時点では概ね変更なく事業が進んでいるとのこと報告をＪＲ四国から受けています。

令和6年度については、バリアフリー化事業に係る設計業務が行われ、年度内に完了したことを確認しています。今後についても予定どおり令和7年度から整備工事に着手し、令和8年度末までの約2箇年をかけてバリアフリー化事業を実施していく予定となっています。

現時点での整備工事のスケジュールについては、現在、乗り換え跨線橋の橋桁の製作に向けた準備が開始されており、令和8年6月頃に乗り換え跨線橋の設置が完了した後に令和8年7月頃からエレベーターの設置工事が順次行われる予定となっており、来年度末を目途に駅のバリアフリー化事業は完了する見込みであるとの報告を受けています。

また、令和7年8月頃から駅東側の町有地及び駅前のロータリーの一部が今回のバリアフリー化事業の作業ヤードとして使用される予定であることから、ロータリーやＪＲ四国が運営している日貸の駐車場等の使用に一部制限が発生する予定である旨の報告を受けております。引き続き、代替えや安全対策などの必要な措置を適切に講じるよう、本町からＪＲ四国に対して働きかけを行っていく予定としております。

今後も整備スケジュールの変更などがありましたら、これまでと同様に遅滞なく議会の皆様にご報告をさせていただきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

4、令和6年度末で設計が完了していると思いますので、設計完了後の整備内

容について、変更点の有無を併せてお答え下さい。

政策課長（吉田 拓也）

門議員のＪＲ多度津駅バリアフリー化の整備内容についてのご質問に答弁をさせていただきます。

整備内容についても整備スケジュールと同様に令和6年3月定例会の総務教育常任委員会でご報告した内容から現時点では変更なく、事業が進んでいるとの報告を受けております。具体的な整備内容を改めて申し上げますと、まず、ＪＲ多度津駅南側の旧パン屋付近において、改札内からホームに渡る乗り換え跨線橋と3基のエレベーターが新設されることで法令上のいわゆる「移動等円滑化された経路」が整備されることとなります。また、その乗り換え跨線橋から各ホームへの階段も併せて整備される予定となっております。その他として既存の多目的トイレへのオストメイト設備の設置、ホーム等の点字ブロックの改良、改札の拡幅、触知案内板の設置、駅の待合所の引き戸を容易に開閉可能な構造に変更するなどの移動等円滑化基準に適合するための設備の整備が予定されております。

今回のバリアフリー化事業によって、利用者の方の動線距離は現状とほぼ同程度ではございますが、現状の駅舎よりも安全性と利便性の両面において一定の向上が図られる計画となっております。

さらに、将来的な駅舎更新の際には多額の事業費が必要とはなりますが、駅舎自体を複層化し、平成29年度に整備した駅北側の緊急避難路と接続することで更なる利便性の向上を図ることも可能となるように長期的な視点をもって事業が進められております。

今後、整備スケジュールと同様に、もし、バリアフリー化事業の整備内容に変更などが生じた場合は、これまでと同様に議員の皆様に遅滞なく、ご報告させていただきます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（門 秀俊）

丁寧な説明、有難うございます。多度津駅がバリアフリー化されていないから、丸亀駅を利用しているという町民の声を聞いています。移動に困難を抱えている町民の方やご高齢の方にとって、最寄りの駅がバリアフリー化されることは非常に重要です。そして、多度津駅の結節点としての特性を生かしながら、街の活性化を図っていくとともに誰もが住みやすい街を作っていくことは、多度津町が今後より持続可能な自治体となっていくために必要なことだと思います。

将来的な駅舎複層化などによる利便性の向上も視野に入れながら、現在行っている多度津駅のバリアフリー化についてはその趣旨に則り、出来るだけ早期の実現を要望して、私の一般質問を終わらせて頂きます。本日は、有難うござい

ました。